

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

392号

2023年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 「力による平和」は核戦争への道 ～尹錫悦の危険な戦争外交～

「平和が金で買えるなら安いものだ」というのは金大中元大統領の有名な言葉だ。

戦争はかけがえのない多くの人の生命を奪い、貴重な基盤施設と環境を破壊する。多くの人が戦争に反対しているが、残念ながら戦争を望んでいる人がいるのも現実だ。戦争で莫大な利益を得る人たちが。軍産複合体と言えばアメリカを連想するが、韓国も例外ではない。韓国の昨年の武器売却額はウクライナ戦争の影響を受け、前年の72億5000万ドルから170億ドル以上に急増した。尹大統領は「防衛産業は安保と経済を支える『国家戦略産業』である」とし、国策として軍産産業の規模の倍増(20年18兆ウォンから27年40兆ウォン)を支援している。

「死と苦痛に寄生してこそ成長できる」と言われる武器産業を大きく成長させ、世界屈指の武器供給国になろうとしているのだ。

尹大統領は「力による平和」を強調し、「外交による平和は『偽りの平和』『口先だけの平和』である」と批判する。国軍の日75周年式典では10年ぶりに軍事パレードを大々的に実施し、「北が核を使用すれば、韓米同盟の圧倒的な力で北の政権を終息させる」と豪語した。

「北が核を使用すれば」核戦争であり、朝鮮半島で核戦争が起きれば北も南も生き残れない。強力な韓米同盟で核戦争を勝利できるという発言は、「力による平和」の過信というよりも妄想である。平和は平和的手段によってのみ持続可能だ。外交(対話と交渉)による平和は偽りの平和だと主張する人たちが望むのは戦争だ。「力による平和」は強い武器には強い武器で対抗するという悪

循環をもたらし、その本質は軍拡への口実である。

尹大統領は米国の「新冷戦」政策の先鋒隊になり、米日に屈従して韓米日の軍事同盟化に奔走している。「文在寅政権の5年間は偽の平和ショーと対北屈従」「休戦協定を平和協定に変えようと主張する人々は反国家勢力」など、極右勢力の主張を堂々と公言して「金正恩打倒」を主張する人物を統一部長官に任命し、ソウルのメインストリートで軍事パレードを実施するなど朝鮮半島の緊張は高まる一方である。

大統領の仕事は戦争に勝利することではなく、国民の生命と安全を守り、豊かな生活を保障する事だ。そのためには平和が大前提となる。平和は繁栄であり、戦争は破滅であるのは言うまでもない。平和は平和的手段によってのみ持続可能だ。



▲国軍の日、兵士たちに演説する尹大統領

「南北は平和協定を締結して互いに対する武力の使用を放棄し、あらゆる分野で関係を正常化する道を進まねばなりません」

「朝鮮半島で刀を溶かしてすきを作る日、世界には確実な平和が訪れるでしょう」。国連総会でこう演説した韓国の大統領がいた。金大中大統領でも盧武鉉大統領でもなく文在寅大統領でもない。なんと盧泰愚大統領だ。

平和には保守も進歩も与党も野党もない。尹錫悦の外交は危険な戦争外交であり、完全にレッドカードだ。幸い、来年の総選挙の前哨戦と言われたソウルの区長選挙(10月11日)では与党が大差で惨敗した。この勢いで検察独裁政権が検察独裁戦争政権になる前に、尹錫悦大統領を退陣させなければならない。(隆)

## 4年ぶりに野遊会を開催

### 参加者間の親睦と交流を深める

#### 韓統連大阪本部野遊会

猛暑だった夏が終わり、秋を迎え、韓統連大阪本部主催で「韓統連大阪本部2023年野遊会」が10月29日(日)、淀川河川公園太子橋地区BBQエリア(大阪市旭区)で開かれた。



#### ▲参加者で記念写真

この間、コロナ禍で開催できず、4年ぶりの開催となった野遊会は天候にも恵まれ、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が「今年、韓統連大阪本部は9月に統一マダン生野を開催するなど様々な行事を行ってきました。今日は久しぶりの野遊会です。皆さんと美味しい焼肉を食べながら、楽しい一時をすごしましょう」と乾杯挨拶を行った。

今年の野遊会には、久しぶりに韓統連の行事に参加した会員をはじめ参加者は七輪を囲みながらビールなどを飲み、焼肉を食べながら親睦と交流を深め、最後に記念写真と尹錫悦政権退陣を求めるプラカードアピールを行った。

## 映像資料、スライドを通じて

### 7・22訪韓団の活動成果を共有する

#### 日韓平和連帯訪韓報告会

7月22日にソウルで開かれた「停戦70年朝鮮半島平和大会」に代表団を派遣した日韓平和連帯の主催で「朝鮮戦争・停戦協定70周年訪韓団報告会」が10月9日(日)、PLP会館(大阪市北区)で開かれた。

報告会では、映像資料の上映と日韓平和連帯代表の西山直洋さんがスライドを通じて活動報告を行い、訪韓団の活動の成果を共有した。

続いて、金昌五韓統連大阪本部副代表委員が、

最近の朝鮮半島をめぐる情勢について報告を行った。金副代表は報告を通じ▲米国で開かれた韓米日首脳会談を機に韓米日軍事同盟がより強化されている。▲9月の朝ロ首脳会談では両国が反帝国主義共同戦線(対米国)の構築を確認。▲現在世界は米国の一極支配が終焉し、ブリックスに見られるように多極化へと進んでいることなどが報告され、日本で活動する私たちの課題として「歴史修正主義、日本軍国主義復活に反対する闘いと韓日・朝日民衆の連帯運動強化が求められる」と語った。



#### ▲情勢報告を行う金昌五副代表委員

その後、訪韓団メンバーから「韓国民衆運動の力強さを感じた」「世の中を変えようとする熱気が伝わってきた」などの感想が語られた。

## いややねんせんそう！こどもまつり

### (通称:いやせん)、35回目の開催！

子どもたちが「戦争はいやや、あかん」という気持ちを育てるきっかけにしたいと、生野区の公園を使って長年続けられてきた「いややねんせんそう！こどもまつり2023(毎年、末尾にその年の西暦年を入れている)」も、なんと35回目！今年は10月21日(土)、御幸森第2公園(大阪市生野区)で開催された。

昨年と同じく、オープニングのプンムルの打楽器の音色が響き渡ると、それに誘われるように増々人が増え始め、続くアジアハウスこども劇団による合唱でいよいよ「いやせん」らしい雰囲気盛り上がりきたが、今年はそのこからが大変。何度も雨が降ったりやんだりし、時折強い風が吹いて一気に寒さが増したりと天候不順に見舞われることに。実行委員会メンバーがスピーカーや機材が濡れるのを防ぐためにビニールをかけて回っ



たり、雨風を避けるために舞台を急遽テント下に移動したりと大忙し。天候の都合で残念ながら好評の全員参加によるリンボーダンスはできなかったものの、それ以外のプログラムは参加者、出演者たちの協力で無事終わることができた。



▲アジアハウス子ども劇団の合唱

今年の「いやせん」は、ウクライナやパレスチナで戦火が広がる一方、日本政府が軍拡にひた走っていることなどに対して実行委員会のメンバーたちも心傷めつつ、いまこそ日本は戦争をしてはならないことを明らかにしていこうと準備したパンフレットに、日本国憲法9条を明記したカードを織り込み、来場者たちに配っていった。

来年は世界の戦争が収まる中で「いやせん」を迎えたい。そう思わせる今年の「いやせん」でした。

## 岸田政権による軍拡と 南西諸島などの軍事化に反対しよう！

### 2023秋関西のつどい

岸田政権による軍拡が進む中、「とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和2023秋関西のつどい（主催：同実行委員会）」が10月21日（土）、エルシアター（大阪市中央区）で開かれた。

つどいでは、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが主催者挨拶を行った後、講演①として「岸田大軍拡の本質を暴く」をテーマに、ジャーナリストの布施祐仁さんが講演を行った。

布施さんは講演を通じ「岸田政権の軍拡の本質は、バイデン政権が昨年出した国家安全保障戦略にある。その内容には“強力な国家連合の構築”

と明記されている。これは日本など同盟国の力を借りるという意味だ」と語った。また「台湾有事を指定した日米共同作戦計画が進められており、それに伴い南西諸島の軍事化が強化されている」と指摘した。



▲講演を行う布施祐仁さん(撮影::細川義人)

そしてASEAN（東南アジア諸国連合）独自のインド太平洋構想を例（競争ではなく、対話と協力のインド太平洋を目指すなど）に出しながら、「日本が米国に追随して軍拡を進めるのか、平和憲法を活かして戦争を予防する方向に進むのか、日本の選択が問われている。それによって日本とアジア、世界の未来は大きく変わる」と主張した。

続けて、平和運動家の山城博治さんが「とめよう！沖縄・南西諸島の軍事化」をテーマに講演を行った。山城さんは「戦後、沖縄県民は基地はいらないと言っているのに、歴代日本政府は沖縄に基地を押しつけ、そのうえまた基地を作ろうとしている。米国政府の言いなりになっているだけではダメだ」と岸田政権を強く批判し、「戦争をするのではなく、外交努力を通じて国民を守るのがあるべき政府だ」と述べながら「沖縄、南西諸島を軍事化させない闘いを共に行っていこう」と語った。

つどい終了後、参加者はデモ行進を行い、道行く人々に「岸田政権の軍拡政治反対！」「南西諸島にミサイルを持ち込むな！」などを訴えた。

## 「無罪が証拠もなく有罪に」尹美香議員控訴審不当判決に反駁する

去る9月20日、ソウル高裁は尹美香(ユン・ミヤソ)議員(無所属)に対し懲役1年6ヶ月・執行猶予3年を、挺対協・正義連活動家に罰金2000万ウォンを言い渡した。ソウル地裁での無罪判決を新たな証拠もなく有罪とした不当判決に、韓国をはじめ世界各国の多くの市民が強い抗議の声を挙げている。

高裁は「戦争と女性の人権博物館」が、ソウル市から不正に補助金を受けた地方財政法違反及び詐欺、吉元玉(キル・ウォク)ハルモニへの準詐欺、安城ヒーリングセンター売買に関する業務上背任などは一審通り無罪としたが、次の3点につき一部有罪を言い渡した。

### ●業務上横領について

高裁では「慰安婦」ハルモニの生活の場「平和の我が家」の故孫英美(ソン・ヨミ)所長の個人口座に保管されていた挺対協の資金を、尹美香議員が共謀して横領したとの嫌疑について、すべて無罪とした一審判決を覆して有罪とした不当判決だ。これに対して尹議員側は「孫所長の口座は挺対協の資金ではなく、孫所長の個人口座であり、これについて尹議員は関与する権限もなく知りえなかった」としている。尹議員と孫所長の個人的な口座間のやり取りを横領と判断した高裁判決は到底受け入れがたい。

さらに「平和の我が家」で暮らすハルモニに支給される政府支援金は挺対協の資金ではなく、ハルモニたちの個人のもので、これをハルモニたちから委託されて管理していた孫所長の私的な仕事だった。これをもって挺対協がハルモニたちに支給された政府支援金を横領したとの控訴審判決は間違っている。

一審で一部有罪となった1700万ウォンについても裁判官は「嫌疑なしと証明されないだけで、尹議員はそれ以上の寄付を挺対協にしている」と語っていた。

### ●国庫補助金管理法違反について

高裁は女性家族省から受けた補助金について欺罔(ぎもう・相手を欺く行為)・不正があったとしたが、問題になった部分は職員への人件費関連で、支給された人件費を不当に挺対協へ返納させ

たというものだったが、女性家族省の補助金で人件費を受け取った職員は一審で「月に150万ウォンの人件費を補助金から受け取り、これとは別途に挺対協からもほぼ同額の給与をもらっていたので、被害者支援の担当者として補助金からもらった分は、自分の意志で挺対協に寄付した」と証言していた。また「尹美香代表が講演料などを挺対協に寄付したり、長年活動しているオンニたちが、少ない報酬にもめげず働く姿に尊敬の念を持っていて、自分だけが余計に給与をもらうのは申し訳ないと思い、自分の意志で寄付した」と動機について証言していた。明らかに違反事実はなかったことが、あらためて確認できる。



▲控訴審で不当判決を受けた尹美香議員

### ●寄付金品法違反について

これは金福童(キム・ポツン)ハルモニの市民社会葬儀に際し、個人や団体から寄せられた弔慰金募金を寄付金品法違反としたものだ。

一審は、この弔意金募金については寄付金品法上の寄付金に当たると判断したが、葬儀なので事前の募金計画を立てることができない点、公正な運営が行われていたことなどから、刑法の正当行為であると見なして無罪としたが、高裁は集まった弔慰金のうち葬儀に使って余った分を市民団体への寄付、市民団体、活動家の子女に対する奨学金などに使ったことをあげて事実上、市民社会葬の名目で事業支援金を集めたのも同然で、これを正当行為には当たらないとしたが、金福童ハルモニが女性人権運動家として尊敬を集め、その死を悼む市民の思いを受け止めるための口座を設けるのは当然で、弔慰金が葬儀費用を上回ったことは結果であって事前に知る由もない、葬儀費用の内訳を公表し、故人の意志に従って全額公益目的に支出したことは極めて妥当な行為だった。

控訴審判決が確定すれば尹議員は議員職を失うことになる。尹議員側は10月26日、ソウル高等裁判所に上告書を提出した。今後は大法院で争うことになる。

尹錫悦大統領になって対日ヌンチ(顔色うかがい)外交が話題になる中、韓国司法の健全さを証明できるか注目されるどころだ。(鐵)



## 【投稿】

## 戦後78年、わが故郷はやはり温かな街だった

井上 淳

植民地者の子孫がやっと願いが叶い、足を踏み入れることができた生誕の故郷・光州。その町と、河と、公園の風景と、人々の温かさに出会い、何を思い、何を感じたのか。

韓国民主主義の原点光州、私はこの秋、友人に誘われ、おそらく5度目の光州へ旅立った。

Aさん、彼がこの旅の主人公である。1945年8月30日光州生まれで、両親は光州の刑務所職員という、ある意味典型的な「植民者の子ども」である。

老年期を迎え、そして亡くなった父親が書き残した回顧録にひかれるように、Aさんはこの光州行きを決意した。やや認知症の傾向にあるお姉さんからの光州での遠い思い出にひかれたこともある。

同行者は3人、在日2世で研究者の李洋秀(イ・ヤンス)さんに事前の諸調査と通訳を引き受けていただき、私は添え物に徹することとなった。そして、光州現地の案内と様々な情報を提供して頂いたのは、光州の市民団体「社団法人日帝強制動員市民の会」理事長の李罔彦さんと会員の皆さんだった。

「1980年5月18日光州抗争」の現地として有名な光州は人口150万人もの広域大都市である。しかし、Aさんが求める光州は80年も前、人口わずか7万人の街だ。区域も拡大し、すべてが変わっていた。

両親が勤務した光州刑務所は面積6000平方キロの巨大なものだったが、現在は光州市の中心部となり、何の面影も残していなかった。

お姉さんからよく聞かされていた光州、それらがまず訪問場所の大半となった。まず日本人の子どもが通っていた小学校は、ほとんどそのまま残っており、現在は36人の子どもたちが通っているという。またお姉さんが夏の楽しみにしていた

「鐘紡」のプールは工場の敷地が変わり、確認できなかった(プールは日本人専用と思われる)。

そして、お姉さんが立派すぎて驚かされたという階段が120あった侵略神社「光州神社」は、今は階段のみが残され利用されていた。また「本町」という家族がよく利用した商店街は形態に違いはあれ残っていた。

両親が勤務した刑務所での待遇は、給与が朝鮮人の平均の2~3倍、他に外地手当が支給され、かつ物価が内地の3分の1程度のため、かなり裕福な生活ができたという。

その後、私たちは李理事長に「国立5・18民主墓地」に案内され参拝、抗争の中心地となった噴水のある「民主広場」なども案内いただいた。

私は民主墓地でのキャンドル革命の初期、警察の放水車によってお亡くなりになった農民ペク・ナムギさんのお墓に参拝できたこと、またあの映画「タクシードライバー」

で有名なドイツ人記者ユルゲン・ヒンツペーターの墓標碑に一礼できたことがうれしかった。

また、幸いだったのは1929年10月に起きた光州学生独立運動の記念館に案内していただいたことだ。私はこの運動が「日本人中学生の朝鮮女子生徒へのからかいから始まった」という理解しかしていなかったが、運動は光州からたちまち近隣へ、そしてソウルや平壤など各地にも拡大したことを知らされた。この運動を知ることで、あらためて光州民主主義の原点を知ることとなった。

Aさんの心の底からの念願であった「光州の旅」は時間にすれば正味2日間で、とりあえず終わった。後は彼が、それこそ「朝鮮植民者の子弟」としてこの旅をどう捉え、思いを膨らませ、お姉さんに報告できるか、また私たちにどのように報告してくれるかだと思ふ。大いに期待したい。



▲5・18民主墓地を参拝した井上さん(右側)

## 【韓国ドラマ紹介】

## D.P脱走兵追跡官

「大韓民国の男子は法の定めるところにより、兵役の義務を遂行しなければならない（大韓民国兵役法第3条）」。

上記は今回のドラマのオープニングに出てくるテロップです。そう、このドラマの舞台は韓国の軍隊です。知っての通り韓国には徴兵制があります。基本的に満20歳～28歳の期間に入隊しなければならず、兵役期間は陸軍及び海兵隊が18ヶ月、海軍20ヶ月、空軍21ヶ月です。

軍隊は上下関係が厳しく、上官の命令は絶対です。また日常の訓練や生活を外から見ることもありません。兵役につく青年たちの中には厳しい環境に耐えきれず、脱走する者も出てきます。その脱走した兵士を捕まえる部隊がドラマのタイトルになっている「D.P脱走兵追跡官」です。Dは「Deserter（脱走兵）」、Pは「Pursuit（追跡）」の略です。

主人公アン・ジュノ二等兵は陸軍の憲兵隊に配属されますが、上官から身体能力と洞察力を買われD.Pに誘われ、年上のハン・ホヨルと共に脱走

兵を追いかける任務に就きます。脱走する兵士たちの脱走理由は様々ですが、このドラマで描かれている題材は部隊内の「いじめ」です。ジュノが脱走兵を追跡する中で脱走の理由が明らかになります。軍歌の覚えが悪いと暴行を受けたり、イビキがひどいからと防水マスクに水を入れられて眠らせなかったりなど、どれも不条理で、耐えられず脱走した兵士たちをジュノは追いかけます。



原作はウェブマンガで、作者が兵役中に体験したことなどを描いています。韓国で放送後、兵役対象の男性を中心に大きな反響があり、韓国国防部が「これまで国防部と各軍では、暴力などの過酷な行為を根絶やしにするため、兵営の刷新に向け努力してきた」と異例のコメントを発表したほどでした。

軍隊の闇の部分を描いた重たい内容ですが、社会派のドラマとして見る価値はあります。全6話で今年、続編のシーズン2（全6話）も放映され、どちらもネットフリックスで見ることができます。（ソソ）

## ◆◆行事案内◆◆

<p><b>大阪朝鮮学校裁判記録集出版記念集会</b> 「あたりまえの権利」を求めて</p> <p>日時：11月22日（水）午後6時30分 受付 午後7時 開会</p> <p>場所：東成区民センター大ホール （地下鉄今里駅2番出口から徒歩3分）</p> <p>内容：朝鮮学校生徒たちの芸術公演 朝鮮学校裁判の経過報告 裁判総括 他</p> <p>資料代：500円（高校生以下無料）</p> <p>主催：朝鮮高級学校無償化を求める連絡会・大阪</p>	<p><b>11・22事件48周年</b> 故・太倫基(テ・ユンギ)弁護士の名誉回復を求める</p> <p><b>11・26市民の集い</b></p> <p>日時：11月26日（日）午後2時～</p> <p>場所：PLP会館4階中ホール （地下鉄扇町駅4番出口から徒歩5分）</p> <p>内容：「故・太倫基弁護士の懲戒処分真相と名誉回復への課題（仮称）」</p> <p>講師：曹永鮮(チョ・ヨンソソ) 民弁会長</p> <p>参加費：1000円</p> <p>太倫基著書『足裏がすり減るまで走れ』冊子代込み</p> <p>主催：在日韓国良心囚同友会 他 090-3994-4699</p>
--	---

## 編集後記

4年ぶりの野遊会、美味しい焼肉を食べて、楽しかったです。

11月だというのに、まだまだ暖かい日が続いています。しかし、インフルエンザが流行しているとのこと。かからないよう気をつけましょう。（ソソ）